

琵琶湖保全再生部会の活動概要

1 令和6年度の部会開催状況

月 日	議 事 等
令和6年 11月18日	○ 部会長の選出について ○ 琵琶湖保全再生施策に関する計画（琵琶湖保全再生計画）（第2期）の推進状況について ○ 琵琶湖保全再生施策に関する計画（琵琶湖保全再生計画）（第2期）の改定に向けて ○ マザーレイクゴールズ（MLGs）の推進状況について＜報告＞
令和7年 3月27日	○ 琵琶湖保全再生施策に関する計画（琵琶湖保全再生計画）（第2期）の振り返りについて ○ 琵琶湖保全再生施策に関する計画（琵琶湖保全再生計画）（第3期）の令和7年度のスケジュールについて

2 令和7年度の部会審議予定

(1) 令和7年6月11日

○琵琶湖保全再生施策に関する計画（琵琶湖保全再生計画）（第3期）の骨子案について

(2) 令和7年9月中旬～下旬

○琵琶湖保全再生施策に関する計画（琵琶湖保全再生計画）（第3期）の素案について

(3) 令和7年11月上旬～中旬

○琵琶湖保全再生施策に関する計画（琵琶湖保全再生計画）（第3期）の答申案について

○マザーレイクゴールズ（MLGs）の推進状況について（報告）

「世界湖沼の日」とは

①「世界湖沼の日」

■「世界湖沼の日」とは

- ✓「世界湖沼の日」は、**湖沼が世界各地の淡水需要や生態系の健全性、生物多様性保全に取り組む上で重要な役割**を果たしていることを、あらゆるレベルで世界的に注目を集めるための日(国際デー)

■ 世界湖沼の日:8月27日

- ✓ 滋賀県が主催した第1回世界湖沼会議(1984年)の開会日



②「世界湖沼の日」制定のメリット

■「世界湖沼の日」とは

- ✓「湖沼」が世界の水を巡る議論の主要課題に位置付けられること (**湖沼問題の主流化**)、持続可能な湖沼管理の推進
- ✓ **世界の湖沼関係者間の意識の高揚や更なる連携に寄与**
- ✓ 国際的に滋賀県・琵琶湖に注目が集まる
- ✓ 日本を代表する湖である琵琶湖の保全再生施策の推進に寄与

【参考】国連の水の記念日 (※国連HP「国際デー」より)
国連の定める195の記念日のうち、以下の7つが水関連

- 2月2日 : 世界湿地の日(World Wetlands Day)
- 3月22日: 世界水の日(World Water Day)
- 6月8日 : 世界海洋デー(World Oceans Day)
- 6月17日: 砂漠化および干ばつと闘う国際デー
(World Day to Combat Desertification and Drought)
- 10月13日 : 国際防災の日(International Day for Disaster Reduction)
- 11月5日: 世界津波の日(World Tsunami Awareness Day)
- 11月19日: 世界トイレ・デー(World Toilet Day)

③ 国際デー(国連の記念日)

■国際デーは、多くの関係者がそのテーマに関連する活動を組織する機会

- ✓ 国際デーは、国連の主な活動分野である国際の平和と安全の維持、**持続可能な開発の促進**、人権の擁護、国際法と人道支援の保障に関連
- ✓ 採択後は、国連関連機関や加盟国政府等が**国際デーを啓発活動のきっかけ**として活用

「世界湖沼の日」制定の経過

World Lake Day ～ 始まりはびわ湖 ～ #びわ湖から世界へ

現在

2021年マザーレイク
ゴールズ (MLGs) 策定

2018, 19年全層循環
未完了
2017年琵琶湖保全再生
計画策定

1999年マザーレイク21
計画策定

1993年琵琶湖がラム
サール条約湿地に登録

1986年国際湖沼委員会
(ILEC) 設立 (草津市)

琵琶湖一斉清掃

1981年びわ湖の日 (7月1日)

1980年琵琶湖条例施行

石けん運動

1977年赤潮発生

県内

各国や国際機関が湖沼の重要性を認識し、協働して湖沼および関連する生態系を持続可能な形で維持・保全・再生することとされた。「湖沼」が世界の水を巡る議論の主要課題に位置付けられることが期待される。

2015年琵琶湖保全再生
法施行

1999年琵琶湖の総合的
な保全のための計画調
査策定 (～2020年)

内陸工業県として琵琶湖周辺
に多くの人口・事業所を抱え
る本県は、湖沼の環境問題に
世界に先駆けて対応

1972年琵琶湖総合開発特別措
置法施行 (～1999年)

国内

2024年「世界湖沼の日」
制定 (8月27日)

2024年第10回世界水フォー
ラム (インドネシア) 開催

2023年第19回世界湖沼会議
(ハンガリー) 開催

2003年第3回世界水フォー
ラム (琵琶湖淀川流域) 開催

2001年第9回世界湖沼会
議 (琵琶湖・大津) 開催

1991年生態学琵琶湖賞創設

1984年第1回世界湖沼会議
(琵琶湖・大津) 開催
(8月27日～31日)

世界の湖沼環境の保全に係る行政
担当者、研究者、市民が一堂に会
し、ともに考え、手を携え具体的
な行動につなげていく契機とする
ため、本県が開催を提唱

世界



2024年12月17日
採択を受けてくす玉
を割る三日月知事

2024年12月12日
国連総会でのイン
ドネシア政府代表



2024年5月
世界水フォーラム
で提案する三日月
知事



2023年11月
世界湖沼会議で提
案する江島副知事

約40年



昭和59年(1984年) 8月27日
第1回世界湖沼会議 (大津市) での
武村知事 (当時)

過去

滋賀県にとっての「世界湖沼の日」とは

① 自らの暮らしを振り返るきっかけ

- ✓ 国連機関や政府による啓発により、湖沼に関する発信の機会の増加
- ✓ 県民、県内事業者の湖沼環境保全に関する意識の高揚、取組推進に寄与

【7月1日(びわ湖の日)】

※滋賀県富栄養化防止条例の施行日

・県民および事業者の間に広く環境の保全についての理解と認識を深めるとともに環境の保全に関する活動への参加意欲を高めるための日

普段身近な存在である母なる湖に想いを馳せ、日々の暮らしをふり返し、美しく整える日

琵琶湖は
私たちの
暮らしを映す「鏡」



② 県民だけでは解決できない課題へのアプローチ

- ✓ 地球温暖化など気候変動に伴うと考えられる「全層循環の未完了」などの現象の顕在化
- ✓ 気候変動への対応は県民の努力だけでは解決不可

【8月27日(世界湖沼の日)】

地球規模の気候変動が世界各地の湖沼に影響を及ぼす中で、世界の湖に想いを馳せ、世界中の人と力を合わせて母なる湖を守る取組を進める日

琵琶湖は
世界の
環境問題を見通す「窓」



■7月1日 びわ湖の日
=MLGsの日でもある



■8月27日 世界湖沼の日
=世界の湖沼環境を考える日

滋賀県でのR7年度の「世界湖沼の日」に関する取組

本県にとっての「世界湖沼の日」制定の意義

みんなで、滋賀・びわ湖の“過去”を輝かせ、“いま”を輝かせ、“未来”を“世界”を輝かせるきっかけ

① “過去”を輝かせる

- 先駆けて「成長の限界」に直面し、赤潮というびわ湖の悲鳴を聞いた先人たちのびわ湖への想いや情熱、行動に今、改めて光を当て蘇らせる。

② “いま”を輝かせる

- びわ活やネットゼロなどのMLGsの達成に向けた活動を充実・強化する。
- 気候変動の影響等、従来の取組だけでは解決できない湖沼環境の課題に挑戦する。

③ “未来”を“世界”を輝かせる

- ①②の成果等を
- しっかりと受け継ぎ、自らが学びを深め成長し、行動する若者を育成する。
 - 世界に発信・貢献し、プレゼンスを高め、世界から見た滋賀・びわ湖の魅力・価値を更に高める。

4

①②③の成果等をみんなで対話し、共感を広げ、未来を共創する場
(新)「(仮称)世界湖沼の日 共創フォーラム」(R8年2月)

R8年度～



(ポストSDGsを視野に)
多様な主体とともにMLGsを議論

3

“未来”を“世界”を輝かせる

- 「世界湖沼の日」次世代育成(世界湖沼会議への高校生参加/ワークショップ等)
- ニカラグア版うみのこの普及促進
- グローバルサウスビジネス共創事業
- 世界湖沼会議への参加・発信(セッション開催)/関西万博での発信(ブース出展等)

2

“いま”を輝かせる

- びわ活重点期間をびわ湖の日(7/1)から世界湖沼の日(8/27)まで拡大
- 「世界湖沼の日2025」共創チャレンジ(企業や市民団体等と連携した情報発信や活動の展開)
- 「(仮称)いのちを育む琵琶湖を目指す検討会」(気候変動影響による湖沼環境課題への挑戦)

1

“過去”を輝かせる

- 琵琶湖保全再生レガシー継承(これまでの歩みのアーカイブ化/公開等)
- 琵琶湖博物館での「世界湖沼の日」記念事業

特に若者の力で時代を紡ぐ

琵琶湖保全再生計画
(第3期)の検討・策定

多様な主体との連携
部局横断の取組